

## はしか(麻しん)感染増加、注意



はしか(麻しん)の感染が増えています。

全国の医療機関から報告された今年の患者数(速報値)は、4月5日現在、累計236名(国立健康危機管理研究機構発表)と、昨年同時期の3.6倍に上っています。

都道府県別では東京都が72名と最も多く、次いで埼玉、千葉、神奈川と続き、上位4都県で全体の過半数を占め、また、愛知や鹿児島で集団感染が報告されています。

兵庫県では昨年は12名の報告がありましたが、今年は現時点では2月に神戸市で報告された1名のみです(北播磨圏域での患者発生報告は、昨年及び今年ともありません)。ただ、近隣県での患者発生の報告もあることから引き続き注意が必要です。

最近のはしか(麻しん)は、海外からの帰国者や訪日客によるウイルスの持ち込みにより感染が広がるケースが相次いでいること、今年は患者の半数以上が10~20代であることから家庭内や学校などでの集団感染が報告されていることも大きな特徴として挙げられます。

はしか(麻しん)は、潜伏期間が長く感染に気付かないまま周囲に感染させるリスクもあり、感染すると10日ほどで発熱や咳、鼻水などの症状に加えて、発疹が症状として現れます。また、感染すると肺炎や中耳炎などを合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症するなど重症化する恐れもあります。

感染が疑われた場合はすぐに受診せず、まずは“電話”で医療機関に相談しましょう！



## ワクチンで抗体価を得よう

はしか(麻しん)は一度かかると生涯、免疫が保たれ、再び発症はしないといわれています。

では、はしか(麻しん)を予防するためにはどうすればいいのでしょうか？

最も有効なのは『ワクチン接種』です！

麻しんワクチンは、風しんと混合したMRワクチンで、1歳と小学校入学前の1年間で計2回の定期接種を受けることになっています。MRワクチンを2回接種することで1回接種に比べて高い抗体価の維持が期待され、麻しんウイルスに接触した際にも麻しんを発症しないか、非常に軽い症状で済むと同時に周囲への感染力も低くなるといわれています。また、発熱、皮疹などの副反応も1回目より2回目以降の方が少ないともされています。

しかしながら、近年の定期接種率は徐々に減ってきており、厚生労働省によると、2024年度に2回目を接種した割合は91.0%と、10年前と比べて2%余り低くなっています。

現行の定期接種が始まる以前は1回接種や任意接種が行われていた時期もあり、特に20代後半以上の方で感染したことがなければ免疫が十分でない恐れもあります。この機会にワクチンを2回接種しているか母子手帳で確認したり、かかりつけ医で麻しんの抗体検査を受けるなどして感染予防のための対策をお願いします。